

ユニフォームの色と勝率の相関

保健班:相田将希、北賀智稀、八幡朔太郎、山田修大

要約

本研究の目的は、色彩が選手の運動パフォーマンスに影響を与える一因になるのかどうかを調査、考察することである。赤、青、黄、紫の4色のユニフォームに絞り、どのような影響を与えるのか、試合結果や勝率にどのような影響を与えるのか、調査を行った。調査結果から、色が選手のパフォーマンスや相手選手への心理的影響に関連すると結論付けられた。

1. はじめに

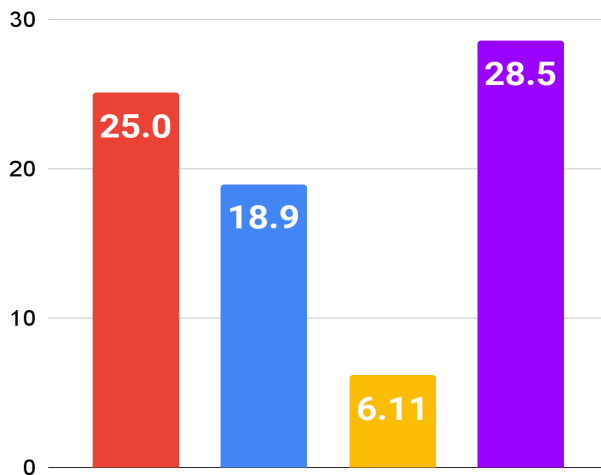
人間はだれしも、「色」というものから、印象を受ける。例えば、黄色や赤色は、「派手」茶色や濃い緑は「地味」といった印象を受ける(田代 2012)。

私たちは、サッカーにおいて、人が色から受ける印象が選手の心理的パフォーマンスに影響し、結果(勝率)にも影響があるのではないかと考え、それに関する調査を行った。

2. 研究手法

Jリーグの過去13年間の出場チームのホームユニフォームの色(赤、青、黄、紫)を集計し、年間順位で上位3チーム以内に入る確率を調べ、結果を考察した(各色のチームの元々の母数が結果に影響しないように調整している)。

今回の調査では、優勝する回数が多く、結果を得やすい4色に焦点を当てて調査した。他の色は、優勝回数が少なかったため、本研究では考慮しないものとする。



3. 結果

年間順位で上位3チーム以内に入る割合は赤色が25.0%、青色が18.9%、黄色が6.11%、紫色が28.5%という結果が得られた。

4. 考察

色彩心理と運動パフォーマンス(2012,田代)より、赤色は興奮を与える色であるという研究結果が得られている。また、相手にとって驚異的で相手の冷静さを欠くという特徴を持っている。これらのことが相手選手の心理に影響して赤色のユニフォームの勝率が高くなったと考えた。

そして同様の研究から、青色は、冷静さを与える色であると述べられている。私たちはこのことから、赤のユニフォームは相手の冷静さを欠かせ、青は自身を冷静沈着にさせると考えた。

また同様の論文から、混合色(本研究では紫)では、その色が含む色の印象を与えると述べられている。

そして結果、紫色のチームの勝率が最も高かったことから、紫色は混合色である赤の相手の冷静さを欠くといった特徴と青の冷静さを与えるといった特徴の影響を受けていると考えられる。

5. 結論

考察より、人を興奮させる色である赤色のユニフォームを着たチームの勝率が高いことや、勝率が高い赤と青の要素を含む紫色の勝率も高かったことから、色が選手のパフォーマンスや相手選手への心理的影響に関連すると考えられる。今後はユニフォームの色と集客の関係やスポーツグッズの色と売り上げの関係について調査、考察していく。

また、勝敗は様々な要素が絡み合って成立しているものなので、ユニフォームの色だけが勝敗に関わっているわけではない。今回は自チームのユニフォームの色についてのみ着目したが、ユニフォームの色がアウェイの場合、観客の数、プレーし慣れた会場かどうかなど、他に勝敗に関係する要素はある。したがって、今後はこれらその他の条件が勝敗にどのように関係するのか深く調査、考察していきたい。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

田代 祐人「色彩心理と運動パフォーマンス」

https://biwako-seikei.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=3184&item_no=1&attribute_id=20&file_no=1